



園だより

ながつき

9月(長月)号

令和8年9月1日

千代田区立お茶の水幼稚園

園長 伊藤 栄司



<http://www.schoolweb.ne.jp/chiyoda/ochanomizu-k>

遊び込む子どもたちの姿

42日間に渡る長い夏休みが終わりました。ご家庭や地域での様々な体験を通し、一回りも二回りもたくましくなった子どもたちの姿から2学期のスタートを感じます。夏休み中のたくさんの体験で得た力を存分に発揮できるよう環境を整えていきます。

さて、夏休み中にも表題の「遊び込む姿」が見られたのではないかと思います。子どもたちは時に、自らやりたいことを見つけ、夢中になって取り組むことがあります。夏祭りに参加した時や友達と会って公園で遊ぶ時など、協力したり工夫したりしながら夢中になって遊ぶ姿が見られたのではないのでしょうか。

夢中になって取り組む

幼稚園教育では、「遊び」が学びの中心にあります。中でも大切にしているのがこの「遊び込む」姿です。ただ遊んでいるように見えるかもしれませんが、どうすればもっと面白くなるのか、友達とどのように力を合わせればよいのかを考えながら、試したり工夫したりする姿をさします。

例えば、砂場で川づくりを始めた子どもたちが、「もっと水を流したい」「橋を作ろう」と相談しながら遊びを発展させていくことがあります。最初は一人の思い付きだった遊びが、友達のアイデアによって広がり、仲間が増え、何日も続く遊びへと変わっていきます。このような様子が「遊び込む」姿です。

倉橋先生の教え

文部科学省の『幼稚園教育要領』では、幼児期における遊びについて、「主体的な活動を通して学ぶこと」が重要であると示されています。子どもは遊びの中で、自ら考え、判断し、行動する力を育てています。また、友達との関わりを通して、相手の思いを知り、自分の考えを伝え、折り合いを付ける力も身に付けていきます。

また、幼児教育の第一人者倉橋惣三先生(明治15年生まれ)は、「子どもは遊びの中で育つ」と述べています。大人から教えられるだけでなく、自分でやってみたいと思い試行錯誤する経験こそが、子どもの成長を支えるとの考えです。遊び込む子どもたちの表情は真剣そのものであり、意欲や達成感にあふれています。この学びに向かう姿勢が目的をもって学び続ける探究の学習へとつながります。

遊びの広がり

9月は、ふれあいスポーツデーに向けた活動や季節の自然との触れ合いなど、子どもたちの遊びがさらに広がる時期です。遊びの広がりには夏休み中の体験が大きく影響することもあります。見たこと、聞いたことをもとに完成形をイメージして様々なことにチャレンジしていきます。

例えば、1学期のわくわく縁日ではひまわり組の子どもたちが乗り物コーナーを作りました。アイデアの元になったのは遠足で行った井の頭動物公園の遊具です。イメージを形にするまで何度も話し合い、試行錯誤を繰り返しました。当日の嬉しそうな笑顔は、遊び込んだからこそ得られる満足感です。先生方は、子どもたち一人一人の「やってみたい」気持ちをしっかりと受け止め、遊びがより豊かに発展するよう、いつも環境を整えています。

時には泥だらけになったり、服を汚したりしながら夢中になって遊ぶ姿は、次の何かを生み出す経験と捉えてください。一つ一つの経験が、子どもたちの考える力、人と関わる力、最後までやり抜く力へとつながっています。

子どもたちが心から「楽しい」と感じながら遊び込み、大きく成長していく姿をこれからも共に見守っていきましょう。

【参考文献】・文部科学省『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』 ・倉橋惣三『育ての心』